



令和 3年 4月19日 国立大学法人弘前大学

報道関係各位

『令和3年度日本臨床衛生検査技師会 学術奨励賞受賞について』

弘前大学（大学院保健学研究科）では、千葉県千葉市にて2020年9月5日から6日まで開催されました第69回日本医学検査学会（学会長：山寺幸雄）におきまして「輸液療法時の不適切採血が生化学検査値に及ぼす影響と輸液混入検出指標の検討」（研究代表者 野坂大喜講師）を発表いたしましたが、この度、本研究が優秀演題に選出され、令和3年度日本臨床衛生検査技師会学術奨励賞を受賞となりましたのでここにご報告いたします。

（研究発表概要）

輸液治療中患者の血液生化学検査において、不適切な採血操作に伴って輸液溶液が検査用血液に混入する医療インシデントが発生することがしばしば報告されています。本研究では輸液混入に伴ってどのような検査項目に影響が及ぼされるか、また輸液混入を疑うべき検査指標について検討を行い、輸液混入検知支援のためのアルゴリズムを研究いたしました。本技術は総合病院等で一般的に使用されている自動臨床検査分析システムへと組み込むことで、医療インシデントを防止することが可能となり、安全な医療の提供において貢献するものと期待できます。

適切な採血部位

- 怪我や疾患、治療の影響を受けない
- 輸液の影響を受けない

医療インシデント・アクシデントの例

採血部位	検査結果	指示または実施した治療	得票
左上肢	血糖値 659mg/dL	ヒューマリン 10単位 投与	*乳がん術後で左上肢での採血・血圧測定は禁止との表示がベッドの横断にある
左腕部	血糖値 上昇	注射用 インスリン 療法	*採血することに集中し、輸液中であることを認識していなかった
右上肢	ナトリウム 110mg/dL カリウム 7.0mg/dL	カルシウム 0検査	*左上肢にPICCカテーテルを留置していた *輸液中の状態で採血すると検査結果に影響を及ぼすことを知らなかった

事例1のイメージ

主治医への報告前に検査部門内で不適切採体を検知する医療安全対策技術の確立が必要



本研究は、総務省戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）『光学センシング技術を用いた非侵襲輸液血管外漏出遠隔モニタリング支援システムの開発』の支援を受けて行われたものです。

【情報解禁日時】 あり ・ なし

【取材対応可能日時・場所】

<日時> 4/20 17:00 以降
4/21 10:00~12:00
4/22 17:00

<場所> 保健学研究科 A 棟 2 階 暫定小会議室

【取材に関するお問い合わせ先】

(所 属) 弘前大学保健学研究科
(役職・氏名) 事務長 橋本 美佐子
(電話・FAX) TEL:0172-39-5902
(E - m a i l) jm5902@hirosaki-u.ac.jp